

2018年10月1日

4K・8K放送における「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」
運用にあたっての基本的な考え方

日本放送協会
日本民間放送連盟

2018年12月1日から新4K8K衛星放送が開始される。4Kはフルハイビジョンに比べて4倍の画素（3,840×2,160画素）、8Kは16倍の画素（7,680×4,320画素）を持つことや、広色域化、HDR（ハイダイナミックレンジ）信号への対応など、一層の高画質化が図られている。

4K・8K放送によって映像表現の可能性が広がる一方、細かく点滅する映像や急激に変化する映像手法などについては一層の配慮が必要となることから、日本放送協会（NHK）および日本民間放送連盟（民放連）は、当面の対応として、同放送における「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」の運用にあたっての基本的な考え方を取りまとめた。

4K・8K放送における「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」の運用にあたっては、以下の点に留意する。

- ・ 4K・8K放送においても「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」を原則、適用する。
- ・ HDR番組の制作にあたっては、輝度変化の範囲が従来より広がるため、その影響を十分に考慮する。
- ・ 特に、光感受性のリスクが大きいとされる幼児・児童・青少年の視聴に留意する。
- ・ テレビの見方に関する適切な情報を視聴者に提供する。

NHKと民放連は今後、さまざまな知見を蓄積し、国際基準の動向を見据え、4K・8K放送を含むガイドラインのありようを引き続き検討する。

以上